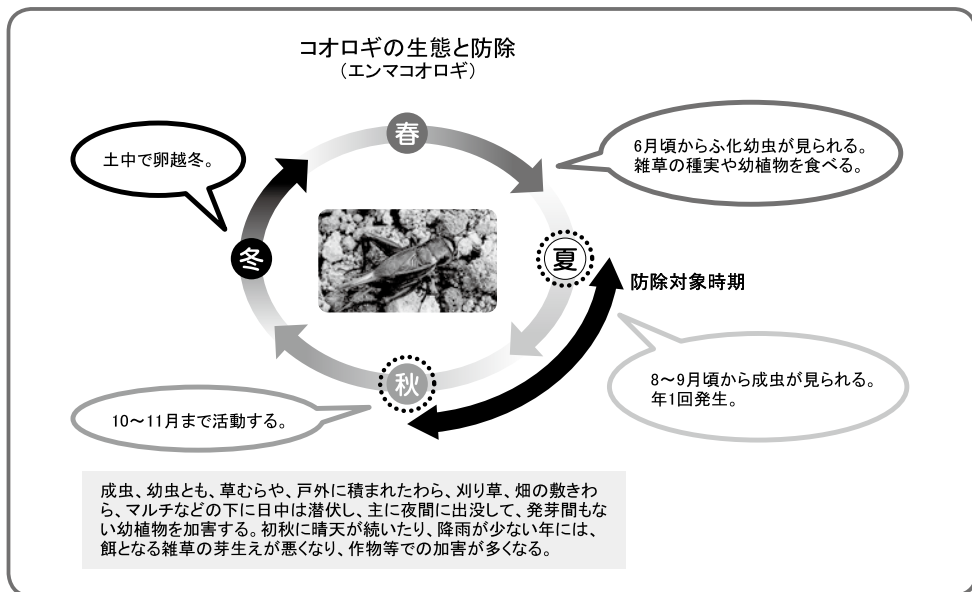


コオロギ類

生態と防除



被害

- 夏から秋にかけて、は種する野菜の発芽苗や幼苗が根際から食いちぎられ枯死します。降雨の少ない年は、幼虫時期の死亡率が低くなるので被害が現れやすく、また敷きわらを用いた栽培の野菜の後作、雑草地を耕した直後の圃場で被害が大きくなります。
- 圃場周囲の土手などに巣穴をあけ、そこを拠点に出入し、圃場内に移動して加害します。
は種直後の敷きわら(盛夏の頃には種する野菜では、は種後の乾燥防止に敷きわらを施すことが多い)は絶好の住家を与えることになります。